



南会津 のうりんニュース

平成16年12月 (第79号)

今月の写真：「蒲生岳」(只見町)

黄、赤、茶と様々な色を見せてきた南会津の山々も、雪が降ると一転して白い装いを見せるようになります。

「会津のマッターホルン」蒲生岳が白い装いを見せたところ。ふもとを流れる只見川が、鏡のようにその姿を映しています。

今月の内容：

- 今月のトピックス
 - ・男女共同参画社会の実現に向けて
 - ・林業コンクールなど3部門で知事賞受賞!! ほかに
- 農林事務所からお知らせ
 - そばを訪ねて会津高原「会津高原そばマップ」を改訂します
- 特集！
 - 経営体育成促進事業について
- 南会津の木のはなし
 - 古町の大いちょう (伊南村)
- 今月のコラム
 - 日々雑感 (時間と技術)
- 研修会・講習会等お知らせ

平成16年12月10日発行 福島県南会津農林事務所

今月のトピックス

男女共同参画社会の 実現に向けて



男女がお互いの人権を尊重し、自分の能力を活かすことができる社会(「男女共同参画社会」)づくりを目指すため、11月30日に「21世紀南会津農林業男女共同参画推進大会」を郡内170名の参加のもと、田島町の御蔵入交流館で開催しました。

基調講演は飯館村の農業委員会会長である佐野ハツノ氏に「男女でつくる、いきいき農業・農村の実現」と題してお話を頂きました。佐野さんは村主権の海外研修に参加したのをきっかけに、農業経営への参画に目覚め、村の農業委員に、そして会長になり、農業環境の改善に積極的に取り組まれ、周囲から高い評価を受けています。しかしながら現在に至るまでには女性であることから周囲の理解を得られなかったこともあ

るなど、苦勞をされたそうです。

続いての事例発表では田島町の湯田浩仁・江美さん夫妻、只見町の三瓶清志・やえさん夫妻と下郷町の吉村徳男・真由美さん夫妻から、それぞれ自分たちが家族経営協定を締結し、経営改善に取り組んでいる話をされました。

意見交換では家族経営協定の話が多く出されました。今回講演や事例発表をされた方々や参加者からは家族経営協定によって経営への意識が変わり、大変よかったとの話が出され、会場が盛り上がりました。

男女共同参画社会は夫婦や家族で各々の役割を明確化し、その務めを果たすことです。そのためにも家族経営協定の締結は重要なポイントになっています。

(農業普及部)

林業コンクールなど3部門で 知事賞受賞!!



平成16年10月30日(土)に郡山市のホテルバーデンにおいて、福島県林業コンクールなど3つの表彰事業の表彰式が行われました。

これは、第29回福島県林業祭の関連行事として行われたもので、福島県林業コンクールでは造林技術部門で下郷町の小山匡司さんが福島県知事賞を受賞した

ほか、林業研究グループ部門でも地域一丸となりわらび園を運営している藤生わらび生産組合が県知事賞を受賞しました。

福島県学校関係緑化コンクールでは、学校周辺の豊かな自然を生かし自然との共生をテーマに緑化活動に取り組んでいる下郷町立南小学校が学校環境緑化の部で知事賞を受賞しました。この様に、3部門で知事賞を受賞したことは前例が無く、快挙と言えます。

授賞式では受賞者を代表して、知事賞は藤生わらび生産組合代表大竹雄三さんに、福島民友新聞社長賞は南小学校福地敏教校長に表彰状が授与されました。

その他、下表のとおり多数の方が表彰されました。
(森林林業部)

今回受賞者された皆さん(敬称略)

第54回福島県林業コンクール

造林技術部門	福島県知事賞 下郷町 小山匡司
間伐技術部門	県木材協同組合連合会長賞 下郷町 星源一
林業研究グループ部門	福島県知事賞 田島町 藤生わらび生産組合

第55回福島県学校関係緑化コンクール

学校環境緑化の部	福島県知事賞及び福島民友新聞社長賞 下郷町立南小学校
----------	-------------------------------

第33回福島県きのこまつり品評会

なめこの部	(財) 県きのこ振興センター理事長賞 只見町 長谷川達海
	奨励賞 舘岩村 平野隆一

農林事務所からお知らせ

そばを訪ねて会津高原 「会津高原そばマップ」を改訂します



このたび、平成13年の作成以来、南会津郡内各所に配布して大変好評を得ています「会津高原そばマップ」を更新することとしました。

そこで、現在「会津高原そばマップ」に掲載されていない方で、新たにお店の情報を掲載したい方を募集します。掲載のご希望がありましたら、右の記載方法及び応募方法によりお申し込みください。

(注意)

- ・掲載する店舗は南会津郡内で営業しているものに限りです。
- ・掲載は無料です。



県内の話題



JA伊達みらい 青果物消費宣伝に 「完熟 GuMi」活躍!

(県北農林事務所より)

JA伊達みらいでは、伊達産青果物のイメージアップと消費者との橋渡しを強化する販売戦略をたて、今年度初めて「JA伊達みらいPRレディー」を募集しました。

採用された女性は、いずれも生活経験豊かな熟女6名で、愛称を「完熟 GuMi」とし、管内で生産される青果物についての講習や勉強を十分に受け、福島弁で消費宣伝することを申し合わせPR活動に取り組んできました。

千葉県のリブレ京成八千代台店、札幌Aコープ、県内のヨークベニマル店等大型量販店やスーパーで、もも、キュウリ、ミニトマトなどのPRを行いました。

北海道での初めてのPR活動では、30分程度は遠慮がちだったものの、その後、積極的に「もも」試食をすすめて、目玉商品として用意したものまで、5時半にはすべて売りきれほどの売れ行きとなりました。

また、旬のキュウリは「柔らかくておいしい」と高齢者から子供にまで喜ばれ、多くの消費者に買い求められました。

消費者や店員、バイヤーからは、暖かい方言で、子供に試食をすすめて、親には食べ方を説明する奮闘ぶりは、「とても初心者とは思えない」と高い評価を得ました。

「完熟GuMi」レディーの皆さんは、「消費者から思っていた以上に多く声をかけられ、やりがいがある」と感想を述べていました。

りんご、あんぽが出荷される時期となり、おいしさを発信する「完熟GuMi」の今後の活躍が益々期待されます。

■「会津高原そばマップ」掲載 申し込み記載方法

- 1 店舗名、代表者氏名、住所、電話番号
- 2 営業時間、定休日、予約の必要の有無
(※予約が必要な場合は〇〇日前、〇〇時間前などを併せてご記入ください)
- 3 駐車場の利用可能台数
- 4 お店の自慢(50文字まで)
- 5 お店で扱っている物
(※「食事」、「そば粉の販売」、「道具の販売」の中から選んでください(複数可))

■応募方法

FAXまたは郵送により、お住まいの町村の役場までお申し込みください。

(※締め切りは平成16年12月27日です!)

(地域農林企画室)

経営体育成促進事業について

(農村整備部)

「経営体育成促進事業」は、ハード事業の「経営体育成基盤整備事業」(平成15年度より「ほ場整備事業」から事業名が変更になりました)と一体的に行うソフト事業であり、農地利用集積及び経営体育成のためのきめ細かな支援策を講じることによって、農業生産基盤の整備の十分な効果発現を図ることを目的とした事業です。この事業については、市町村及び土地改良区等が事業主体となりますが、主な事業内容については以下のとおりです。

①担い手育成農地集積事業

担い手の経営等農用地の面積が事業完了時まで一定割合以上増加することを条件に、農家負担額の6分の5以内(ただし年度事業費の10%を上限)に相当する額の無利子資金の貸付を行う事業です。

②高生産性農業集積促進事業

事業完了翌年度に、担い手の利用権設定等契約期間が6年以上で契約残年数3年以上の利用権等設定率が、事業実施前より40%以上増加した場合に、最大で累計事業費の2.5%の促進費を交付する事業です。

③土地利用調整推進事業

土地改良区等が、自主的に行う土地利用調整活動を推進する事業で、受益面積によって限度額が異なります。

(60ha未満:75万円以内、60~200ha:100万円以内、200ha以上:200万円以内)

経営体育成促進事業は事業採択前に地域で担い手を決定し、これらの者の農地利用集積及び営農等について市町村が基盤整備関連経営体育成等促進計画を作成し、この計画に基づき事業を実施します。

なお、担い手の要件は以下のとおりです。

担い手の要件

- ①事業完了時に認定農業者であることが確実である方。
- ②次の項目のすべてを満たす方
 - ・目標年度において認定農業者となることが確実である者
 - ・専ら主として農業経営に従事する16歳以上65歳未満の農業従事者
 - ・完了時の経営等農用地面積が合計3.5ha以上の者(この他に一定の要件を満たす生産組織や集落営農も担い手になることが可能です。)

以上簡単に事業内容を述べましたが、農村整備部では他にも水路、道路、活性化施設、集落排水等の事業も担当しておりますので、農業農村整備事業についてのお問い合わせは南会津農林事務所農村整備部までお寄せ下さい。

南会津の木のはなし

古町の大いちょう

(伊南村農林課)

この大いちょうは、建久年間会津四家の一人、初代河原田盛光が東館、西館を築いてここに重臣を住まわせ、その時に植えた庭樹と伝えられています。十一代盛次の時、馬場安房が居住したので馬場屋敷と呼ばれておりました。(現在は伊南小学校となっています)

昔は乳の神として村人の信仰が厚く、また遠くは上州や越後からの参詣者も多く、また現在でも降雪の占いにも使われていて、晩秋の落葉が一時に落ちれば根雪が早く、チラホラ落ちれば根雪が遅いとされています。

この木は、樹齢800余年と推定され、樹高35メートル、根廻り16メートル、目通り11メートルあり、県の天然記念物にも指定され、県下随一の老樹であり、伊南村の歴史を秘め敬愛されている樹木でもあります。



今月のコラム

現在、私は会津若松から自家用車で通勤しています。片道1時間を要し、春は緑・碧・翠が濃くなるのを日々実感し、また、日暮れが遅い夏季は美しい夕暮れに目を細め、秋は日一日と短くなるにつれ色鮮やかになる紅葉を眼前にし、まさに季節の移り変わりを楽しんでいます。ただし、これからは冬将軍の到来と共にドライブを楽しむ余裕は無くなっていくでしょう。

ところで、1時間のドライブとなると、これは長いのか短いのか？人によって感じ方は様々と思われま。誰にも平等に流れる時間が、人によって、年代によって、様々な感じ方を。若いときの1日が、1年が、年の経過と共に短くなっていくのを多くの人々が感じていると思います。田島勤務が既に半年を超え、職務柄内勤がほとんどでしたが、あつという間の時の流れだった気がする今日この頃です。

さて、私は試験場（果樹）を振り出しに、行政、普及それぞれを経験させてもらってきました。普及は平成6～8年の3カ年でしたが、この時期は貴重な経験をさせてもらいました。それは、今では当たり前の技術になってしまった複合性フェロモンを利用した減農薬の栽培確立に向けて、福島普及所と果樹試が共同でりんごで実証試験を行った時期でした。それまでの小規模なレベルの試験から、数十ヘクタール規模の大規模な実証試験に取り組みを始めたときであり、私は、この性フェロモン利用技術は生産者と消費者のどちらにも有意義であり今後絶対に必要な技術であると思ひ、成功させなくてはならないと意気込んでいました。果樹の指導会では、どんな場合でも必ず性フェロモンの話をするように同僚にもお願いしていまし



（時間と技術） 日々雑感



た。当時は農家の人も性フェロモンがどんなものか理解している人は少なく、しかしながら半信半疑ながらも色々協力してもらったものでした。現在は、全国で最も普及面積が多い県となり、農家も当たり前の技術と認識してもらえようになりましたが、試験場の試験開始から十数年の年月を経て、環境にやさしい農業の率先技術として定着したことは感慨が深いものです。

さて、現在、今後は是非進めたい技術は何かと考えてみると、水稻直播であります。かつて手植えの時代は、一人では田植えが出来ないため集落ぐるみなどで共同作業、結（ゆい）が行われていましたが、田植機の出現により一人で作業が出来るようになり、ゆいは崩壊していきました。各人が機械を購入するため機械化貧乏ともいわれましたが、重労働からの解放はそれなりの意義が大きかったと思います。

しかし、最近では高齢化の進展等により農作業を行える人が少なくなってきており、地域（みんな）のために誰かが代表となるしかない時代に入ってきました（代表とは、個人かもしれないし、組織かもしれません）。代表者は当然今まで以上の面積を対応しなければなりません。その際、田植えにおける作業時間（育苗も含む）を大幅に短縮できる技術が直播であります。収量が少なくなったりすることもあり、まだ完成形でないかもしれませんが、改善・改良はどんどん進んでいくでしょう。直播が当たり前という時代は、そう遅くない時期にくるものと考えられます。現在の直播が広まってきてから何年になるのでしょうか？

あなたは、完璧な技術になるのをじっと待ちますか？それともあなた自身が挑戦してみますか？あなたの時間の長さはどの位ですか？

（農業普及部副部長 松本 登）



～研修会・講習会等お知らせ～

内 容	月 日	場 所
①加工施設導入のための施設整備	1月14日（金）	農業短期大学校（矢吹町）
②わくわく親子加工体験 （県産大豆を使った豆腐加工）	1月15日（土）	農業短期大学校（矢吹町）
③気象と農業災害	1月19日（水）	農業短期大学校（矢吹町）

※お申込み・お問合せ先：南会津農林事務所 地域農林企画室 0241-62-5866 / 農業普及部 0241-62-5262



お問い合わせ先はこちら

〒967-0004

福島県南会津郡田島町大字田島字根小屋甲4277-1

南会津農林事務所 地域農林企画室

電話 0241-62-5866 FAX 0241-62-5256

電子メール minamiaizu.nourin@pref.hukushima.jp

ホームページ <http://www.aff.pref.fukushima.jp/minamiaizu/>



みなさんのご意見・ご感想をお寄せください。

R100

PRINTED WITH SOY INK™

この広報紙は古紙配合率100%再生紙とSOY（大豆油）インキを使用しています。